

・・・三芳水道企業団水道事業運営審議会について・・・

三芳水道企業団の水道料金収入は、近年の人口減少に加えて、節水器具の普及などにより使用料の減少が続いています。

一方、高度経済成長期に整備された水道管や浄水場の施設の多くは老朽化が進んでおり、施設の更新を確実に進め、震災などの災害に強い施設にしなければ、安定して水をお届けできなくなる可能性があります。

このような状況において、三芳水道企業団が今後も引き続き、安全・安心な水をお届けするために必要となる「水道料金のあり方について」水道事業運営審議会に諮問を行い、審議いただいています。

このたび、答申に向けての基本事項となる水道料金の改定率について、中間答申として報告がありましたので、お知らせいたします。

審議会におきましては引き続き、この改定率に合わせご使用者に負担をいただく水量配分について詳細な検討を行い、最終答申を行う予定となっています。

水道を利用する皆さまには、ご負担をおかけすることとなりますが、企業団としましても効率的な事業運営と健全経営に努めてまいりますので、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

中間答申抜粋

三芳水道企業団の水道事業は、施設の更新の増加と、水道料金の収入の減少に伴い現在の料金水準のままでは、平成30年度頃から損益計算において損失が生じる見込みである。

このことから、健全な水道事業運営を行うためには、適切に収入を確保する必要がありますが、水道料金の改定はやむをえない。しかしながら、市民生活への影響を最小限とするため、平均改定率を5%に留め、使用者に十分な周知期間を設けて行うこと。

給水収益の現状

